

第4回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会 会議録

日時：令和4年2月1日（火）18時00分開会

場所：札幌市本庁舎12階4号・5号会議室（札幌市中央区北1条西2丁目）

出席：岡本委員*、梶井副会長、川島委員*、定池委員*、佐藤（大）委員*、佐藤（理）委員*、柴田委員*、尚和委員*、高野委員*、高橋委員*、中田委員*、原田委員*、平本会長、牧野委員*、松田委員*、山中委員*、山本（一）委員*、山本（強）委員*、吉岡委員*（*…オンライン出席）

事務局：浅村政策企画部長、本山企画課長、田中企画係長

1. 開 会

○事務局（浅村政策企画部長） 開始時間となりましたので、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会を開会いたします。

私は、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

北海道全体が1月27日からまん延防止等重点措置地域に指定されたことから、本日は、急遽、オンライン開催とさせていただきます。

本日の会議につきましては、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会条例第4条第2項によりまして、委員の半数以上の出席が必要となります。本日の出席人数は、委員総数25名のところ、オンライン出席を含め、21名の委員にご出席いただいております。

なお、原田委員からは10分ほど遅参されるとお伺いをしておりまして、原田委員を含めずとも会議の成立要件を満たしていることをご報告申し上げます。

なお、オンラインでの開催となりますので、まず、委員の皆様にご覧がでございます。マイクにつきましては、音声環境の向上のため、発言のとき以外はミュートの設定にさせていただきますようお願いいたします。また、ご発言をされる場合には、挙手をお願いいたします。進行担当から指名をいたしますので、ミュートを解除の上、ご発言をいただくようお願いいたします。

議事進行につきましては、平本会長にお願いしたいと存じます。

それでは、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○平本会長 皆様、こんばんは。

今回は、急遽、オンライン開催となりましたが、対面開催のときと同様に活発なご議論をいただきたいと思います。

それでは、早速、議事に入ります。

まず初めに、一つ目の議題でありますビジョン編の答申案についてです。

事務局より資料に基づきご説明をお願いいたします。

○事務局（本山企画課長） それでは、議題①のビジョン編の答申案についての説明をさせていただきます。

まず、資料1をご覧ください。

1枚おめくりいただくと、構成図に目次を記載したページとなっています。まず、この図に基づいて、全体像をご説明します。

第1章のはじめには、策定の趣旨や構成、計画期間などの概要を記載しています。

次に、第2章の札幌市の現在と将来に関する考察では、札幌市の強みや魅力、第1次戦略ビジョンの取組結果や昨今の社会経済情勢、SDGsの視点から見た札幌市について記載をしています。この内容は、これまでの審議会でお示しした第1次戦略ビジョンの検証資料や各種の統計資料のほか、皆様からいただいた社会経済情勢に関するご意見を基に構成しています。

そして、第2章までの内容を基に、今後の札幌市をどのように考えていくのかというのが第3章と第4章になります。

第3章では、目指すべき都市像とまちづくりの重要概念について記載しています。

第4章では、まちづくりの基本目標を分野ごとにお示ししています。

最後の第5章では、基本目標の達成に向けて、まちづくりを進めるために必要な考え方を記載しています。

それでは、本編について、ページをめくりながら概略をご確認いただければと思います。

まず、答申案の2ページと3ページをご覧ください。

第1章として、計画策定の趣旨や位置づけ、計画期間をお示ししています。

次に、6ページをご覧ください。

第2章は、札幌市の現在と将来に関する考察となっております。まずは、札幌市の歴史について、さらにページをおめくりいただき、9ページからは、札幌市の魅力や特徴について、アンケート結果や統計情報を用いて紹介しています。

続いて、22ページをご覧ください。

こちらからは第1次戦略ビジョンの取組結果を分野ごとにまとめており、さらにページをおめくりいただき、30ページからは昨年に行った市民アンケートの結果を記載しています。

次に、32ページからは、主要指標の状況ということで、人口や経済など、市全体に関わる指標の傾向やその影響をまとめており、さらにページをおめくりいただき、38ページではこれらの総括をしております。

続いて、39ページからは、人生100年時代の到来やデジタル技術の急速な進展など、昨今の社会経済情勢を記載しています。

次に、46ページをご覧ください。

第3章は、目指すべき都市像とまちづくりの重要概念となっており、第2章の考察をまとめた上で右側に都市像と重要概念を記載しています。これは、前回の審議会でお示しした都市像の解説文等を再整理した内容です。

まず、1の札幌市の現在と将来に関する考察のまとめでは、これまでの札幌市について、「ひと」「ゆき」「みどり」をキーワードに振り返り、現在、人口減少やコロナの感染拡大、脱炭素社会の実現といった転換点を迎えていることを踏まえ、今後は、人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造をはじめとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし、持続的な成長を遂げる社会をつくっていくことの必要性を記載しています。

続いて、下段の2の目指すべき都市像とまちづくりの重要概念では、新しい時代にふさわしい真に豊かな暮らしをつくること、また、様々な分野で新たな価値を生み出すことを記載し、これらにより、国内外から活力を呼び込み、成熟社会における課題をいち早く解決する拠点として、世界をリードする持続可能で多様性と包摂性のある都市を目指すとしています。

そのため、47ページでは、誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなっていること、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できていること、誰もが快適な生活を送れ、新たな価値の創出に挑戦できることの重要性を踏まえ、都市像と重要概念を定めています。

なお、これまでの審議会でもいただいた都市像に係るご意見については、参考資料1にまとめていますので、そちらをご覧ください。

前回の審議会では、三つの都市像案を提示させていただき、今回の答申案で提示した左上の赤色の字の案と、右上の四角囲みの2にあるように、「ゆき」と「みどり」の順番が逆であった案に多くのご意見をいただいたところです。

左下の四角囲みの1から右側の2と3にかけては、前回の審議会での意見を踏まえて修正した三つの都市像案となります。今回は修正案を含めて検討したところですが、左上の赤色の字の案が、様々な状況にある人々に配慮しながらも前向き感があり、目指す都市のイメージを分かりやすく表現しているとの考えから、これを答申案の都市像として提示しております。

それでは、資料1の答申案にお戻りください。

50ページをご覧ください。

第4章では、まちづくりの基本目標を記載しており、中段の第4章の見方に記載のとおり、各分野では、まず、当該分野の考察を示し、その後に基本目標と関連する目指す姿、そして、私たちが取り組むことと続けています。審議会でご指摘をいただいた市民、企業、行政の多様な主体の連携や分野横断的な課題への対応の重要性については本章の初めに記載しております。また、51ページでは基本目標を一覧で示しており、次のページからは分野ごとにその内容を記載しています。

基本目標と目指す姿については第3回審議会でもご意見をいただいております、参考資料2に変更点をまとめておりますので、ご覧ください。

前回からの変更点については、赤色の字で記載しています。

まず、子ども・若者分野では、基本目標2の目指す姿3について、「社会的に自立し」という文言は少し厳しい表現に映るとのご指摘から、「社会とつながり」という表現に変更しています。

次に、生活・暮らし分野では、基本目標5の目指す姿3について、行政手続だけでなく、生活の中の様々な場面でデジタル化による利便性の向上を目指すべきという観点を補強しています。

次に、地域分野では、基本目標7の目指す姿2について、「計画の立案段階などから」とあるように、市民が積極的に参加している様子が分かるような表現にしています。

次に、安全・安心分野では、基本目標8について、漢字が多く、硬い表現になっているとのご指摘を受けて、表現を修正しております。

次のページをおめくりください。

経済分野では、基本目標11は要素を盛り込み過ぎではないかというご指摘を受け、こちらも修正しております。

次に、スポーツ・文化分野では、文化分野で表現し切れていなかった観点を追記しており、基本目標15に「世界とつながる」という文言を加えたほか、目指す姿に、自ら創作や表現ができる、また、多くの人が集まるという視点を加えています。

次に、環境分野では、基本目標16を変更しており、これは都市像においても持続可能な都市と掲げていることから、分野の目標としては、「サステナブルシティ」という表現を「環境都市」に置き換えています。

次に、都市空間分野では、基本目標20について、列挙する内容を精査し、文言を一部追加しています。

最後に、資料1の答申案にもう一度お戻りください。

84ページをご覧ください。

第5章は、目指すべき都市像の実現と基本目標の達成に向けてとなっており、まちづくりを進めるために必要な考えを整理しています。

内容としては、市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携や北海道とともに発展するという視点、SDGsの考え方、また、今後策定を進めていく戦略編の構成についても記載しています。

戦略編については、図にもお示ししたとおり、分野横断的に取り組む施策と基本目標ごとの施策というまとめ方をしていく想定です。

なお、分野横断的な課題、観点の具体的な内容については第4章で整理してはどうかとのご意見をいただいていたところですが、これは目標の実現に向けての具体的な施策を定める戦略編の中で整理することが適切と考えておりますので、議題②においてご説明させ

ていただきます。

○平本会長 それでは、ただいま説明をいただいた答申案についてこれからご意見をいただきたいのですが、この審議会から秋元市長に対して2月中にビジョン編の答申をお渡しする予定になっておりますので、本日はその案についてご検討をいただきたいということですが、

なお、本日は、後半において戦略編についてもご議論をいただく予定になっておりますので、議題①のビジョン編の答申案については大体60分程度でご審議をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、ご意見等がある委員の皆様方は、挙手の上、ご発言をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○柴田委員 都市空間の基本目標19に高次機能交流拠点という言葉があるのですが、これは初めて聞きました。

これはどんなものを具体的に指しているのか、説明を願えますか。

○平本会長 私も最初に見たときにぎょっとした言葉でした。これはタームとして使われる用語であるということでしたが、一応、ご説明をいただけますでしょうか。

○事務局（本山企画課長） 拠点の取組についてです。

例えば、高次機能交流拠点がどういうところかを82ページに記載させていただいておりますが、都市空間の分野の中でもその表示が分かるような表記を追加したいということです。

また、そもそも高次機能交流拠点とは何だということについては82ページに記載のとおりですが、産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的、広域的な広がりを持って利用され、北海道・札幌市の魅力と活力の向上に資する高次の都市機能が集積するエリアとしております。これは現在のビジョンでもその位置づけがございまして、例えば、円山動物園の周辺や北海道大学周辺、苗穂やモエレ沼、さとらんど周辺や大谷地流通団地、芸術の森などが位置づけられております。

○柴田委員 要するに、建物ではなく、エリアのことを指しているのですね。

○事務局（本山企画課長） そのとおりでございます。

○柴田委員 もともとどこかで使われている言葉なのですか。それとも、このためにつくられた言葉なのですか。

○事務局（本山企画課長） 現ビジョンでもその拠点としての位置づけを定めております。

○平本会長 それでは、岡本委員、お願いいたします。

○岡本委員 僕が読ませてもらって思ったのは、札幌、北海道を含めて、積雪寒冷地ですから、地下の活用は非常に重要だと思うのですが、地下の活用や地下のマスタープランみたいな話がどこにも出てきていないような気がするのです。ですから、キーワードとして、地下の利用もきちんと考えていきます、地上との連携とネットワークを検討していきますというようなことを適切どころにぜひ盛り込んでほしいです。

次に、第1回の審議会でもお伝えしていたのですけれども、私たちが取り組むことのところでは、役割分担について、「相互に協力しながら」と出てくると思うのですけれども、主体が市民・企業などと行政でばっさりと線で切り分けられているという表現にどうしてもなじみがないので、お互いに手を取り合ってやることについて、何か表現を工夫していただきたいと思います。

それから、附属的な質問です。

10ページの緑被率のところでは札幌は緑が豊かですという表記をしているところです。行政区域ではそうなのですが、都心部で見ると、東京の23区の緑被率よりも全然低く、半分ぐらいしかないのですよね。それは、まち全体と都心とは別のところに書かれるのかもしれないのですが、認識として、これだけで札幌は緑が豊かだというような口ぶりをするのはどうかな、と思います。

もう一つ、29ページについてです。

これは本当につまらない話で恐縮なのですが、機能の複合の例として、白石区複合庁舎が載っています。でも、これについてはあまりいい評判を聞きませんので、もう少しいい例はないかなと思っています。評判があまりよくない建物を載せるのはどうかな、と思ったので、それもお伝えしておきます。

○平本会長 4点のご指摘をいただきました。地下の活用を盛り込めないか、それから、市民・企業と行政が切り分けられ過ぎていて、みんなで取り組んでいくという感じが読み取りにくいこと、緑被率と白石区の複合庁舎のことについてでした。

これについて何かコメントはございますか。

○事務局（本山企画課長） まず、地下の件についてです。

78ページの基本目標18の「コンパクトで人にやさしい快適なまち」の目指す姿の4番目に「四季を通じて」という表現で、年中を通して誰もが快適に移動できるというようなニュアンスで表現しております。

また、80ページの基本目標19の下段の私たちが取り組むことの目指す姿1・2の行政のほうの丸の上から四つ目に地上・地下の歩きたくなる空間の形成に向けた取組の実施という表現をさせていただいております。

次に、2点目の市民・企業などと行政の分けについてです。

以前も岡本委員からご指摘をいただいておりますが、一旦はこの整理にしているのですけれども、50ページの第4章の最初のリード文の3段落目のところで「市民、企業、行政などの多様な主体が具体的な目標を共有し、その目標に向かって連携しながら取り組んでいける」というような表現をしております。また、第5章で、これは基本目標の達成に向けてのスタンスですが、「市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携」と表現をさせていただいているところでございます。

なお、緑被率の件については、確かにご指摘のとおり部分がありますので、表現を工夫するとともに、白石区複合庁舎についてももう一度精査をしたいと思っております。

○岡本委員 地下は地下と書いてほしいのですよね。言い回しとして「四季を通じて」という表現があるということ、また、すごく狭いところにピンポイントできゅっと入れてくれているのは分かりましたけれども、本当はもう少し「地下」あるいは「地下と地上との連携とネットワーク」という言葉を明示して載せてほしいなという気持ちです。

可能な範囲で積極的に検討をいただければと思います。

○平本会長 ただいま、4名の委員の方が挙手をされておりますが、高野委員、山中委員、吉岡委員、山本一枝委員、中田委員の順番に伺いたいと思います。

まず、高野委員からお願いいたします。

○高野委員 56ページの生活・暮らしの考察のところです。

今年の札幌の冬は、とりわけ雪が多くて厳しい状況です。基本目標5で雪の話や写真も載せてあるのですが、56ページの上段の考察の部分です。恒常的にやっている市民アンケートでは除雪の問題がよく出てきますよね。やれること自体は58ページにあるような施策にどうしても落とし込まざるを得ないと思うのですが、考察のところでは、厳しい冬期の中で豊かな暮らしを保つことは極めて重要だ、あるいは、冬期は、路面で転倒したり交通事故が増えたりということもあるので、安心・安全な暮らしには冬期に対する対策が重要だというような表現を付け加えていただいたほうがいいのかと思っております。

それから、58ページの目指す姿の4にそれぞれやること書いてあるのですが、道路の除雪についてのことになっているのです。環境のほうにも出てくるわけですが、地域熱供給などもやるべきことのところだと思います。環境のところ書いてあるからいいということなのかもしれませんが、単に除雪だけではなく、全体的なまちづくりの中で冬期の問題も書いたほうがいいのかということです。

それから、同じく冬期に関することですが、79ページの都市空間の目指す姿の4に公共交通の利便性の向上、環境に優しい公共交通とあるところです。今年は、JRを中心に壊滅的な状況になっているわけです。やはり、市民ニーズはここにあるのではないかと考えておりますので、環境に優しいというだけではなく、四季を通じて安定した公共交通といったような事柄もキーワードとして付け加えたほうがいいのかと思いました。

○平本会長 3点のご指摘をいただきましたが、返答はございますか。

○事務局(本山企画課長) 56ページの除雪の考察の件はぜひ追記したいと思いますし、58ページと79ページに関しては表現を工夫していきたいと思っております。

○平本会長 それでは、山中委員、お願いいたします。

○山中委員 84ページに「さっぽろ連携中枢都市圏のけん引役」という言葉があって、力強く牽引するみたいなイメージがあるのですが、これについても一回考えていただきたいということを提案いたします。

SWOT分析をやりました。ここに書かれていることの多くは強みとなっているのです

が、弱みはどこに行ってしまったのかなということ。いわゆるメガシティなどと言ったときに、食やエネルギーは地域に依存しているということがあり、我々が消費者として札幌を維持するためには世界や北海道の生産者のことを考えなければいけないということを指摘してきたつもりです。

具体的に言いますと、まず、エネルギーについては、やはり、エネルギーの大消費地ということを環境の基本目標16の中に、つまり、エネルギーについては非常に周りに依存しているということ踏まえ、こういうことをやりますという考えから、現状認識のところには我々には弱みがあるのだよということを少しでも入れたほうがいいのではないかと思います。

次に、札幌市はフェアトレードタウンに認められているように、我々の消費が世界を変え得るのであるということについてです。生物多様性なんか基本目標17の自然との共生の中からも出てくるのですけれども、そこも、札幌の生物多様性だけではなく、我々の消費が発展途上国や北海道の消費、自然の生物多様性を守る、あるいは、フェアトレードとして、発展途上国のSDGsに貢献するなど、そういうことを踏まえた消費行動をしなければいけないとしてももらいたいですし、この消費行動がどこの目標に入るかがよく分からないのです。

例えば、食の問題、つまり、我々北海道は農林水産業で食を得ていますが、それを我々が消費しているわけですから、北海道の農林水産業をどうするかにかなりの責任があるのです。でも、食のサステナブルというものが抜けているのではないかと気がなっています。キーワードとしては、フェアトレードですよね。地産地消と似ているのですけれども、そうした言葉がどこの基本目標に入っているのかがまだ見えません。

最後に、これは指摘があったかもしれませんが、市民・企業などと行政に分かれているところについてです。

ご説明にあったように、50ページでは多様な主体が取り組んでと言っているのですが、それで答えているとは思いますが。また、50ページの一番下の⑥の私たちが取り組むことのところを二つに分けて書いてありますということです。先ほどのご説明もそうで、50ページの上のところ、その目標に連携し合いながら取り組めるように、それぞれが取り組むことについてという例示がしてあるのですが、その言葉を⑥の私たちが取り組むことのところ、二つに分けるといって、連携しながら二つを例示していただくのではないかと思います。

○平本会長 前半のお話は特に重要なことでした。札幌は、大都市であり、いろいろなものを消費しているわけ。そうした視点がどこに位置づけられるかは分かりませんが、それをきちんと記述しておくということですね。しかも、フェアトレードや生物多様性を損なうのではなく、それらをきちんと守って消費することにより豊かさを維持するという観点をどこかに盛り込むべきだというご指摘でした。重要な点だと思うので、これについては事務局でご検討をいただけますでしょうか。

○事務局（本山企画課長） はい。

○平本会長 今回の山中委員のご指摘ができるだけ反映されるような修正をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山中委員 本当にそうです。SDGsは世界のためにですし、世界に誇る都市と言うのであれば、世界のためにいいことをしますよという文言をどこかにちゃんと入れていただくとうれしいです。

○平本会長 それから、市民・企業などと行政との切り分けのところは、もう少しテクニカルに、ぱきっと二つに分け、別々のことをやるのだと見えないようにしてはどうかというご指摘です。岡本委員のご指摘とも全く共通するので、これもご検討をいただきたいと思います。

それでは、吉岡委員、お願いいたします。

○吉岡委員 まず一つ目は、細かい話についてです。

私は、子育て支援の専門でして、52ページの子ども・若者のところについてです。

考察の2段落目の文がちょっと長いので、前半と後半に文章を分けたほうが良いと思います。

「また、全国的に子どもの貧困や児童虐待が増加するとともに、教育格差が懸念される中、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を未然に防ぐことが必要です。」くらいで止めて、その後、生産年齢云々としたほうが良いですね。この4行は長過ぎるので、そこを変えてほしいということです。

次がお伝えしたいことのメインですけれども、同じく52ページに写真が2枚載っております。基本目標1の目指す姿3に、例えば、「ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。」、あるいは、53ページの私たちが取り組むことの本旨3の二つ目の丸に、「男性による家事や育児への理解と実践」といった言葉が出ております。

ところが、52ページの左側の子育てをしている保護者の写真には女性しか写っていません。今、男性保育者も大変活躍しているのですけれども、保育をしている方も女性しか写っていないのです。写真はすごくイメージを呼んでしまいますので、こういったところでも、性別を問わず、子育てに関わっていくのだという札幌市からのメッセージを載せてほしいのです。ですから、この写真はやめていただきたいということです。

また、52ページの右側の写真も、子どもたちと高齢者が一つの居場所で交流するというすごくいい写真だと思うのですが、ここに出てきている市民は女性しかいないように見えますので、この辺りにも少しこだわってほしいなと思いました。

なお、写真についてはほかのページでも少し気になる箇所があります。

56ページの生活・暮らしのところ。生活や暮らしと言うと、やっぱり女性になるのでしょうか。左側のヨガのようなことをやっているのも女性だし、隣の料理をつくっているのも女性で、ここも気になりました。

また、73ページの写真は、文化のことに関するものだと思うのですが、左側は札幌で、右側は資料館ですかね。これでももちろんいいのですが、今回の大きなテーマとして自分たちで新たな価値をつくるというような言葉が出ていますので、ここに何を載せたらいいのかについてはもう少し考えてもいいのかなと思いました。

それから、80ページの写真です。基本目標19では、「世界を引きつける魅力と活力あふれるまち」となっているのですね。右側は、多分、丘珠空港ですかね、札幌のまちづくりですごく重要な位置にあると思うのですが、これは魅力と活力あふれる写真なのだろうかと感じました。こういうところにもこだわってほしいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○平本会長 まず、長い文を2センテンスに分ける、ということはやっていただきたいと思います。

それから、写真についてです。私がばらばらと見たときにはあまり意識していなかったのですが、重要なお指摘だと思いますので、ぜひ魅力的な写真に差し替えることを事務局にお願いしたいと思います。

その際に、例えば、前半のお指摘の女性が育児に携わっている様子についてですが、もし写真がなかった場合、急遽、撮り直してもらえればと思います。どうかして、性別を問わずということが表現できるような写真に差し替えていただきたいと思います。

それでは、山本一枝委員、お願いいたします。

○山本（一）委員 まず、参考資料1の都市像案のところについてです。

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなすという赤色の字がございまして、私としては、一番下の修正案の「挑戦する」が入っているほうがよりアグレッシブな感じがしましたし、みんなで挑戦しているイメージが強いので、こちらがいいのかなと思いました。

それから、経済についてですが、札幌市は、35ページにあるように、1人当たりの市民所得が非常に低いので、66ページの経済のところにもう少し強い一言が必要かなと思います。真ん中から少し下のところですが、「ビジネスチャンスや新たな価値が創出されていることも必要です。」だけではなく、ビジネスチャンスや新たな価値が創出され、多くの市民が豊かになることも必要ですというような文言にすると、本当に豊かな未来がもう少しイメージできるかなと思います。

もう一つは、雪の問題についてです。

実際は課題が大変多いということをおっしゃっていた方がいらっしゃいましたけれども、例えば、学童の通学路のことやお年寄りの外出が難しいということ、滑って転ぶなどもあります。今年は特に雪が多いので、たくさんの課題があるということをごく盛りに盛り込んでいただくとともに、その課題をみんなで解決するという強い意思を示すべきかなと思います。

例えば、資料3に雪の利活用というところがありますが、スノーリゾートだけではなく、例えば、これをエネルギーに活用する、物流倉庫や都市の冷房などに使うという積極的な

活用をすれば排雪問題についても解決できるのかなと思います。ですから、目標を定め、活用しながら、都市を快適にするというような考え方も盛り込んでいただきたいということです。

経済的なことと問題解決というのは裏腹ではなく、課題があるからこそ、そこに仕事が生まれ、経済の発展があるわけで、そうしたことを積極的に考えた文言を入れてくださるといいのかなと思いました。

○平本会長 都市像については、もしかするとほかの委員の皆様からもご意見があるかもしれませんが、皆様方のご意見を伺ってから議論することにいたします。

66ページの文言については改善の余地があるかと思いますが、ご検討をいただきたいと思います。

それから、雪に関わる課題と活用についてです。これは、一部、戦略編に関わる内容も含んでいると思いますけれども、先ほど高野委員からもご指摘がありましたとおり、雪の問題に関しては書きぶりを考え、課題として認識し、その課題にどう取り組むかを明記できるようにするべきだと思いますので、事務局には修正をお願いしたいと思います。

それでは、中田委員、お願いいたします。

○中田委員 まず、9ページです。

札幌が好きな理由が上からずっとありまして、その次のページから、豊かな自然環境をはじめとしたいろいろなデータがありますよね。恐らく、これは、好きな理由を中心としながら、それをデータで示しているのかな、と解釈したのですね。

例えば、「緑が多く自然が豊かだから」、「四季の変化がはっきりしていて、季節感があるから」ということがデータで出されているような気がするのですが、好きな理由の1番目に挙がっている「地下鉄やJRなど公共交通機関が整備されているから」ということに関して何かデータの的なものを示せる可能性があるかをお聞きします。

次は、67ページになります。

経済のところでは食に関することが中心に出ておりますが、食の分野においては、ほとんどがソフト的といいますか、食の販売などが中心に書かれているような気がしました。恐らく、2は製造業のことを意識して書かれていると思いますけれども、札幌の製造業の中でも、食に関する加工・製造業は非常に充実しており、一番いいということもありますので、食に関する製造業を盛んにさせる、あるいは、支援をするというような文言を入れたらどうかな、と思いました。

また、先ほども触れたかもしれませんが、84ページの第5章の2の北海道と共に発展する札幌市に関するところです。

2行目や下から2行目のさっぽろ連携中枢都市圏の後ろに「けん引」という言葉が出ております。確かに、札幌は、北海道の中では経済的にも人口的にも牽引する立場にあると思うのですが、その一方、地方がなければ札幌も発展し得ない、あるいは、牽引することにもなり得ないということがあると思うので、牽引ということを強調するのではな

く、地域との連携を強化するといったことをもっと強調してはどうかと思います。

そして、経済の分野のところに戻りますけれども、68ページの基本目標11にスタートアップに関していろいろと書いていただいております。スタートアップは非常に大事だと思いますし、それを支援することも大事ですが、もう一つ、経済の観点から大きな問題になっているのは事業承継です。事業承継がなかなかうまくできないために事業を辞めてしまわなければならないということがあるのですね。そして、それによって札幌市としての経済的損失もあり得ますので、そういった意味からも事業承継を円滑にできるような支援といいますか、システムづくりについても入れてはどうか、と思います。

また、全体を通しての意見です。

非常にボリュームがあるのですが、例えば、47ページのところでは下に線を引いておりますよね。このように、全部を読まなくても、そこを読めば概要がつかめるというふうに、強調できるような線を引いたり太字にしたり、そうした書き方をしてはどうかということを提案します。

○平本会長 5点ほどいただきました。

データで示せるかどうかについてはご検討をいただきまして、できることならしたいと思います。

それから、食に関するところの書きぶり、それから、「けん引」という用語についてですが、「けん引」については私も少し気になっておりました。特に「連携中枢都市圏のけん引役」について、実際はそうなのですが、そう書くと他都市の皆さんにとってはあまり気分がよくないかなと思いますので、事務局には別の表現ができないかどうかをご検討していただきたいと思います。

それから、事業承継の問題をスタートアップと並べて入れるべきではないかということについてです。確かに、北海道全体の中で札幌だけが承継の問題に直面しているわけではなく、むしろ、地方のほうがもっと問題になっているような気がします。とはいえ、そういったことも盛り込んでどうかというご意見なので、これについても検討し、できるだけ反映させたいと思います。

それでは、定池委員、高橋委員、山本強委員、佐藤大輔委員、原田委員、椎野委員、川島委員、佐藤理良委員の順番でお願いしたいと思います。

まずは、定池委員からお願いいたします。

○定池委員 最初は42ページになります。

こちらは背景のところですが、頻発する自然災害のところ、「近年、北海道においても自然災害が頻発し、各地域で大きな被害が生じています。」と書いてあり、その後、「このため、」と続くのですが、札幌市は、活断層があることをきちんと調べていて、それに基づく被害想定も出しているのです、近年、災害が頻発していますだけではなく、リスクがあるということもきちんと明示していただいたほうがよろしいかと思います。

また、この後にお話することにもつながるのですが、暮らしの回復という視点が全体

的に足りないと感じます。何回か審議会でも申し上げているのですが、その後の話にも生きるかなと思いますので、暮らしの回復という視点をぜひこの前段のところでも入れていただきたいと思います。

それを踏まえて、62ページになります。

こちらの安全・安心の考察のところにもやはり暮らしの回復の視点がないので、その視点を入れていただいた上で、目指す姿のところ、2と3の工夫が要るのではないかと考えています。こちらは、防災と回復のことが混在しており、分かりにくくなっているのではないかと気がなっています。

例えば、2の真ん中辺りの終わりのところに、「誰一人取り残されずに」というとてもいい言葉があるのですが、これは、誰一人取り残されずに、命を守るということと、暮らしを回復していくこと、生活を再建していくことという二つの視点にかかると思うのですが、今の文章では、命を守る、被災者の安全がというふうにとちょっとぼんやりしていて、被災していないと安全を確保してもらえないのかみたいな矛盾が生じる表現になっていますので、工夫が要るのではないかと思います。

また、2と3の工夫が要るという前提でのことですが、災害ボランティアに関して、防災で助け合うという視点のところ、被災した後も、市民の中の支援力、受援力を生かして助け合う、支え合うという視点を設けると、ほかの基本目標とも整合性が出て、いいのではないかと考えますし、できればボランティアの写真があるといいかと思います。

その上で、63ページのちょっと気になる言葉についてです。

2と3では、ボランティアなどによる福祉救援活動の促進、自助の促進、共助の促進ということが行政の取組に書いてあって、市民の取組を行政がある意味強いようなニュアンスになっている気がします。例えば、活動の支援とかであればいいのですが、市民の主体性を応援するようなニュアンスに変えていただくといいのではないかと思います。

札幌市は、自主防災組織の活動支援をされており、すばらしい活動をしているところを表彰されていますが、そういうこともふまえて強いているわけではないという表現に変えていただくといいかと思います。

最後に、74ページの環境の分野になるのか、基本目標16の辺りかもしれないのですが、私は、最近、国交省の豪雪対策の関係の委員を拝命しております。その会議の中では、除雪などの対策だけではなく、雪氷熱エネルギーなどの視点も取り上げられています。資料の中で再生可能エネルギーという文言が入っているのですが、雪冷熱エネルギーという文言も入れていただくといいのではないかと思います。

雪室の活用や雪冷房など、そういった可能性が札幌にはたくさんあると思いますので、そういう視点もぜひ入れていただければと思います。

○平本会長 まず、リスクがあることを明記することに関してはできると思うので、ご検討をお願いします。それから、暮らしの回復という視点をもう少し強調してはどうかというご指摘についてご検討をいただきたいと思います。また、防災と回復のそれぞれに誰一

人取り残さずというニュアンスが含まれるべきだということ、それに併せて、ボランティアの写真をとということでした。さらに、63ページは、主体性を応援するという書きぶりにしたほうが良いということでした。そして、雪のご指摘は、たしか山本一枝委員からもご指摘がありましたが、そのように直してはどうかということです。

これらのご検討をいただけそうな気がしますので、今、定池委員からご指摘があったことについてはできるだけ酌み取るような形で修正をお願いします。

次に、高橋委員、お願いいたします。

○高橋委員 私からは2点です。

まず、54ページの基本目標2の私たちが取り組むことの2の市民・企業などの上から3行目の外国にルーツを持つ子どもというところですが、外国につながるのある子どもという表現に変えたほうがより広い対象者を含むことになると思いますので、その表現ぶりについてご検討をいただければと思います。

また、74ページの環境の目指す姿の3の「ごみの減量・再使用・リサイクルなどが積極的に行われる」というところですが、こういったことは一人一人が主体的に取り組むことが重要だと思います。この文章では誰かがしてくれるのではないかというニュアンスで読めてしまうような気がしますので、一人一人が取り組むのだと分かるように、主体性を持った文章、表現ぶりへのご検討をいただければと思います。

○平本会長 両方とも十分に改善の余地があるというか、そうしたほうがよいと思いますので、今の高橋委員のご意見を踏まえ、修正するようにいたしたいと思います。

続きまして、山本強委員、お願いいたします。

○山本（強）委員 私が見ている違和感を持ったのは、66ページの5の経済に関する記述です。

前段から、この先の日本の社会、あるいは、札幌を支える重要な視点として、デジタルトランスフォーメーションやSociety 5.0、デジタル技術だという書きぶりから始まっているのですが、そこを支えるのはやっぱり経済だと思うのです。経済がデジタル化されないとこれから未来に向かって進めません。

しかし、前段にたくさん書かれているのですが、66ページの経済のところに来た瞬間に、強みを生かした産業が食と観光で終わってしまっていて、ここに違和感を持ったということです。

次のページを見ると基本目標11のところには結構出てくるのですね。例えば、目指す姿2にはデータの活用やオープンデータの話があります。でも、北海道経済を牽引するためには、やはりIT産業が重要であるというアピールをしていただきたいのです。

一番分かりやすいのは基本目標11にある2の項です。これを前に移していただいて、今、1、2となっているところにICTに関する記述を移したほうが良いと思います。でも、そうすると写真問題が出てくるのですよね。ここはデジタルのイメージが全然ありません。これでは札幌市のビジョンとしては具合が悪いと思っています。

シャケやホタテも大事だと思いますけれども、それ以上に我々はデジタル基盤を活用して札幌の未来をつくるのだという意思表示を5の経済の特に始まりのところで打ち出し、ここを少し強化してはいかがかというのが私の見方です。

具体的に言うと、先ほど言ったように、次の基本目標11の2の記述内容を前段に移し、少し強化して、できることならDXという言葉がこの3行の中にも入れてはいかがかということだと思います。

○平本会長 山本強委員ならではのお立場上の重要なご指摘かと思えます。

今の基本目標11の2を基本目標10に移すことができるかどうかは少し考えさせていただくことにして、DXやデジタルのことをもう少し強調してはどうかということは時宜にもかからないと思いますので、これも検討していただきたいと思えます。

ちなみに、山本強委員、デジタルな感じの写真というのはどんなものいいですか。

○山本（強）委員 それが難しくて、私も、今、一生懸命考えていたところです。

イメージとしてはいろいろあると思います。札幌市を象徴するようなデジタルサービスでして、私が最近経験したものでは、札幌市がやっている「えきバスナビ」という市バスの運行サービスなんていうのは非常によくできていますよね。それだけでは少し弱いかないという気がしますけれども、私も協力したいと思えますが、デジタル産業感がある絵を入れたらいいかなと思います。

○平本会長 事務局から山本強委員にきつとご照会があると思えますが、その節はどうかよろしく願い申し上げます。

それでは、佐藤大輔委員、お願いいたします。

○佐藤（大）委員 私からは1点少し気になることを申し上げたいと思えます。

先ほどのご説明を通して聞いていますと、人づくりの部分の印象が全体的に弱いなと思ったのですね。まちづくりの基本目標の20個が並んでいるところで、子どもについては学びや教育という印象がかなり強く、そこはいいなと思うのですけれども、その上の若者です。大学生や若年の就業者というか、働いている方々が学んだりしっかりとした教育を受けたりする、という観点での人づくりがとても大切だと思っております。

特に、札幌は専門学校もあるし、大学もあるので、道内から若い人たちが集まってくる地域ですよ。しかし、その一方、大学生も含めて、若者が東京に流れ出ていってしまうという二つの大きなポイントがあると思うのです。そういった意味から、例えば、54ページに「若者が希望を持って暮らせるまち」という表現を入れていただくなど、若い人たちが学べる、教育をしっかり受けられると分かるようにしていただきたいのです。

私たちが取り組むことの中でも大学などにおける質の高い教育の提供とは書いてあるのですけれども、この1行ぐらいしか書いていないな、という印象があって、少し弱いかないと思うのです。例えば、若者が優れた教育を受けられる、大学や教育機関が魅力的な学びを提供する場となっている、または、高度な学びを受けることができるなど、優れた教育を受けられることができる地域というか、そういう場を目指していくのだということを経営的

に入れてもいいのかなということです。

やはり、人づくりというのはビジネスや経済の根幹だと思うのです。優秀な人がたくさん生まれるからこそ、それに基づいて新しいアイデアが生まれ、産業や文化も生まれてくるのかなと思うのです。そういった教育があって若い人たちが集まってくると活力の一つになると思うので、基本目標2や基本目標3の辺りに入るしかないと思うのですが、人づくりや若い人たちに対する教育、学びの場ということをもう少し強調されてもいいなと思いました。

○平本会長 人づくりという視点はとても重要で、子育てだけではなく、若者もあるし、もう少し広げると、人生100年時代だったら、人生の第2章ないしは第3章を新たに始めるときのリカレントのような話も場合によっては入るかもしれません。これについても事務局にご検討をいただき、どうにか入れたいと思います。

それでは、原田委員、お願いいたします。

○原田委員 今日は遅れて申し訳ありませんでした。

私からは2点です。

まず、1点目です。

今回はビジョンですので、これを戦略あるいは中長期計画に落とし込んでいくということですが、やっぱりPDCAサイクルを回さないと駄目だと思っております。しかし、第1次戦略ビジョンの取組結果というものが出ているのですが、第2次戦略ビジョンのチェック、アクションを今後どうやって再確認していくのか、再評価していくのかが見えていません。

KPIやKGIを設定するのはこれからの作業だと思うのですが、このビジョンは結構言いつ放しの部分が多いので、今後、これをどうやって具体的な施策に落とし込んで評価していくのかを前段のほうに書いておいていただくとありがたいです。

2点目です。

第1次のビジョンでは文化しかなかったのですが、第2次ではスポーツ・文化となったので、私は非常にいいなと満足しております。ただ、コロナで我々の生活は一変しましたし、特に価値観やライフスタイルが大きく変化しましたよね。その中で重要なのがウェルネスというもので、その言葉はあるのですが、私が読んだ限り、ウェルビーイングという幸福に関する記述がなかったような気がします。

かつて岩手県で幸福白書をつくったのですが、幸福を規定する最大の要因は健康なので、健康の先に何があるか、どういう社会をつくるのだということ、幸福やウェルビーイングという文言をどこかに入れてほしいなと思っています。

例えば、70ページの6のスポーツ・文化の6行目に健康増進や共生社会の実現とあるので、そこに健康増進や共生・幸福社会の実現みたいな文言を入れておいていただくと、スポーツと幸福は関係があるのだ、健康と幸福も関係があるのだというイメージが膨らむと思います。

○平本会長 前段のPDC Aをどう回すのか、K P IやK G Iをどうするのか、さらには、ビジョンをどうやって具現化するのかについては戦略編の議論とも関わりますので、後段でもう一度ご議論をいただきたいと思います。

この戦略ビジョンは10年単位のもので、前半5年と後半5年で見直しをするというつくりになっています。もちろん5年では長過ぎるというご意見はあるかもしれませんが、一応、そういうつくりにはなっているということです。また、具体的な落とし込みの部分についてはこれからの戦略編のご議論でもいろいろなご指摘をいただければと思います。

それから、ウェルビーイングあるいは幸福という概念をどこかに入れてほしいということですが、恐らく入れられるかと思いますが、ぜひそうなるようにご検討をいただきたいと思います。

○事務局（本山企画課長） 1点補足をさせていただきます。

幸せという概念に関してですが、実は、ウェルネスにその概念も含んだ表現としております。47ページの第3章の都市像の重要概念のところにウェルネスという緑色の枠がありますが、その中の「誰もが幸せを感じながら生活し」というところに視点としては入れていきます。ただ、それぞれの表現についてはまた工夫したいと思います。

○平本会長 ウェルネスの中にウェルビーイングも包含しているというご説明でした。ただ、原田委員のご指摘はそのとおりだと思いますし、幸福度というのは21世紀になってから経済の分野でもよく議論されていますので、検討させていただきます。

それでは、椎野委員、お願いいたします。

○椎野委員 私からは、簡単に2点ほどです。

76ページの基本目標17の私たちが取り組むこと目指す姿1・2の上から三つ目の白丸のところに遊びや健康増進の場という文言がありますが、「遊びや」といきなり出てくるのは少し唐突な感じがいたします。多分、これは大人よりも子どもがターゲットになると思いますので、あえて直すとすれば、子どもの遊びや健康増進の場とすればいいのかなと思うのですが、私としては、もう一步踏み込んで、ここにレクリエーションという言葉を入れてはいかがかなと思っています。

緑や環境、景観というのは、空間の利用みたいなことの効果としてレクリエーションという非常に重要な概念があります。レクリエーションという言葉は普通に使われているのですが、実はかなり深い含蓄のある言葉で、直訳すると再生産や再創造なのです。何を再生産したり再創造したりするかですが、つまり、余暇活動をすることによって自己を再生産する、つまり、仕事で疲れた体に元気を取り戻し、また働く意欲や新しく頑張ろうという気持ちを湧き起こさせるという健康にもつながる概念なのです。ですから、遊びというものに矮小化せず、レクリエーションという言葉を使ったらいいのではないかと思います。

昨今、子どもも非常にストレスを抱えてしまう生活を送りつつありますので、大人や子どもにかかわらず、自己の再生産をするという意味でレクリエーションという文言は入れ

たほうがいいかなと思います。

ただ、そうすると今度は後半の健康増進とかぶってきてしまいます。そこで、変更案ですが、例えば、レクリエーション（健康増進の場）という修正をしていただくと、先ほどご説明をいただいた目指すべき都市像のウェルネスにもつながってくるかなと思いますので、ご検討をいただければと思います。

もう一つは、非常に細かい話ですが、84ページの三つの都市像の実現と基本目標の達成に向けてのところで、3点目にSDGsの視点の反映という文言がありますよね。私だけかもしれないですけども、視点の反映というのがいまいちぴんどこなくて、視点というのは反映するものなのですかね。下の文章だと、視点を意識するという文言になっていて、この下の文章の中に反映という言葉が使われていないようなのです。ここは視点の導入という文言のほうが非常に適切かなと思いました。皆さんは、特段、違和感を持たないかもしれませんが、私は気になったので、再考していただけるとよろしいかなと思いました。

○平本会長 レクリエーションという用語は、実は結構広く、奥の深い用語であり、そういう言葉を入れてはどうか、それから、SDGsの視点の反映という表現には係り受けとしてやや違和感を覚えるのではないかというご指摘でした。それぞれ文言を修正できるかどうかは検討いたします。

続きまして、川島委員、お願いいたします。

○川島委員 私からは2点ほどあります。

今回、ウェルネスとして、子ども・若者分野、スポーツ・文化分野、都市空間分野、また、環境分野にそれぞれ健康増進や健康意識の高まりと記載されました。ただ、例えば、55ページの子ども・若者のところでは、目指す姿2の市民や企業の取組として、運動に親しむことができる機会や環境の提供という目標が新たに設定されていますが、特に子どもたちが安全・安心に運動に親しむことができる環境の提供というのは市民や企業だけではなかなか難しいのではないかなと思います。ですから、行政側にも安全・安心に運動に親しむことができる環境づくりのような取組を記載することが必要なのではないかなと考えます。

当然ですが、箱物などを新しくつくるだけではなく、既存施設の有効活用や民間も含めた関係機関・団体との連携も環境づくりの提供につながると思いますので、可能でしたらその辺を加えていただければなと考えております。

もう一点、今の誰もがスポーツに親しむ環境づくりに関係しまして、昨年、第3期スポーツ基本計画の審議会の中間報告がありました。その中で、障がい者スポーツの実施率は増加傾向にあるものの、女性のスポーツの実施率がいまだ低迷しているということが明記されておりました。これは今後の戦略編のことになってくるのかなと思います。女性に対する運動や健康づくりの具体的なアプローチをもう少し加えていったらいいのかなと考えております。

○平本会長 1点目の55ページの私たちが取り組むことの2についてのご指摘は、先ほど来、岡本委員などからもご指摘をいただいている市民と企業がやることと行政がやることが、ぱきっと分かれ過ぎているということの弊害だと思うのですよね。ここはどう表現するのがいいのかは分かりませんが、両方がそれぞれの立場で取り組むべきことだということが分かるよう、これまでいただいたご意見を踏まえていい形になるように、改定案がないかどうかを事務局と探らせていただきたいと思います。

それから、女性のスポーツ実施率、女性のスポーツへの参加についての文言をどこかに入れられないかということでしたが、それも検討いたしたいと思います。

続きまして、佐藤理良委員、お願いいたします。

○佐藤（理）委員 3点ありまして、まず、基本目標5の57ページの写真についてです。

生活しやすく住みよいまちということで、環境の写真が二つ載っていますが、生活しやすい住みよいまちをつくるためには、ハードだけではなく、ソフトも必要だと思いますので、ソフトの医療、介護、福祉の写真も載せていただけたらありがたいです。

次に、60ページの3の地域についてですが、考察のところに「ライフスタイルに合わせてまちづくり」と書いてあります。このライフスタイルに合わせてというのは、若い方から年配の方までが含まれているのかなと思うのですけれども、ここだけを見ると、若い方からというのがすごく薄く感じてしまうというか、そうは読み取りにくいかなと思いますので、若い方から老年の方までというような分かりやすい文言に変えていただけないかなと思います。

それから、次のページの基本目標7の写真についてですけれども、両方とも、何となく年配の方たちがまちづくりを頑張っていますよというイメージに見えるので、もうちょっと若い方が参加されているような写真がないかなと思います。

あと、確認ですけれども、この案というのは、このまま冊子になるのではなく、この案の内容からレイアウトを見やすく変えるのでしょうか。

○事務局（本山企画課長） レイアウトに関しては、基本的にこのようなものをイメージしていますけれども、これから最終的な調整等をしていきますので、見やすさやカラーデザインの関係は取り入れていきたいと思っています。

○佐藤（理）委員 第1次のほうがすごく見やすいのですよね。今回のものを見ると、本当にびっしり書かれていて、ぱっと見た方の中には開いたときにもういいかなと閉じてしまう方もいらっしゃるのではないかなと感じましたので、レイアウトについてもご検討をいただければと思います。

○平本会長 レイアウトについては検討いたします。

それから、写真についてです。

今回、多くの委員の方からご指摘をいただいております、確かに、61ページは、両方とも高齢者の方が写っていて、誰もがまちづくりに参加しているということを言っているのに、違うではないかというご指摘はそのとおりに思いますので、写真については全

面的に検討をするべきだと思います。

それから、佐藤理良委員にお尋ねします。例えば、ソフトの医療、介護、福祉の写真ということでしたよね。この分野の札幌の特徴的な写真について、もしアイデアがあれば、今すぐではなくても構わないので、ご提供をいただくと助かりますが、いかがですか。

○佐藤（理）委員 写真が私のところにあるかどうかは分からないのですが、今、在宅医療がすごく注目を浴びてきているので、在宅医療を実際に行っている写真はいかがかなと思います。在宅医療や訪問看護など、医療が在宅に入ってきているよというところを見ていただくとうれしかなと思います。

○平本会長 もし佐藤理良委員のほうで何かいい写真があれば、ご提供をいただければと思いますので、そちらも併せてお願いいたします。

○佐藤（理）委員 確認してみます。

○平本会長 それでは、手が挙がっていらっしゃる木村委員、牧野委員の順にご発言をお願いいたします。

○木村委員 私は、一般市民の立場で第1次戦略ビジョンの冊子をもって読んだことがあります。そのときは、大学でワークショップをするのに、札幌とはどんなまちだろう、これからどうなっていくのだろうということの情報を先に収集する必要があるあって、その資料の一つとしたのですね。今回も一般市民が何か必要があってこの資料を取ってきて読んだときにどうかな、という視点で意見を述べたいと思います。

22ページと51ページのそれぞれの基本目標の表についてです。

前回の第1次ときは7項目で、今回は8項目に増やし、順番も少し変えて構成されているかと思いますが、新しい分野の項目立てと1から8までの順番について言いたいことがあります。

まず、子ども・若者から始まって、8番目は都市空間ですが、この並び順自体にも在りたい姿やビジョン感が出ると思っていまして、私としては、環境やスポーツ・文化の順番を上げたほうがいいのではないかなと思っています。

1から4に入っている子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心というのは、多分、この先10年後も20年後も50年後も絶対に大事だし、項目としては残ります。それが後段の5から8に下がっても、トリを務めるみたいな形で、番号が下がっても優先順位が下がるみたいな印象を与えないと思いますし、大事な社会保障的なものだと思うのですね。

でも、環境やスポーツは後ろに並ぶと大事ではない感が出やすいというか、でも、トレンドとして、環境はそろそろ1や2に上げてきたほうがいいと思っていまして、ほかの政令指定都市のビジョンを見ますと、最近、全部で5項目から8項目を立て、ビジョンやこうなりたいという目指す都市像の2番目に来ているのです。それを踏まえても上げたほうがいいということです。また、最近、LEED for Citiesという国際認証も取ったので、序列を上げたほうがいいのではないかなと思います。

子ども・若者もとても大事だと思うのですけれども、子育て世帯の移住を狙い、人口を増やし、生産年齢人口の獲得を狙いたいみたいところが一番目に子育てを出すのはすごくよく分かるのです。そうしないと生きていけないからです。でも、札幌は、多分、日本の中、北海道の中で求められている大きい役割は別にあって、子育て世帯が欲しいということもあるにせよ、自分たちのまちの立ち位置だけでそれを最初に掲げるというのは果たす役割として違うのではないかなと思うのです。でも、大事なことに違いはないですから、トリとして8番目に持っていき、そのほうがより札幌らしいまちづくり分野や基本目標の並び、構成になるのではないかなと思います。

○平本会長 51ページの上に都市像があって、この都市像については少しご議論をいただく必要があると思っているのですが、「ひと」「ゆき」「みどり」がもし出てくるとすると、この順番に沿って1から8を並び変えたほうがいいのかもかもしれないなど今の木村委員のお話を伺いながら思いました。

例えば、「みどり」というのは、環境とも大いに関わる話ですよ。また、子ども・若者を最後に持っていくというのは一つのご提案だと思うのですけれども、「ひと」が最初に来ているという意味では、これがトップにあるのが札幌らしさなのかもしれないなとも思いました。

ただ、おっしゃるように、環境がこんなに後ろのほうにあるのはちょっと違うのではないかというのは、少なくとも2022年に策定するものとしてはそうかなと思いました。

順番を入れ替えるのは難しいのですかね。

○事務局（本山企画課長） 順番に優劣は考えていませんでした。もともと、人口減少や人口構造の変化という視点からこういうロジックで並べているだけですが、順番を変えるかどうか含め、時間をいただければと思います。

○平本会長 ご指摘についてはとてもよく分かる部分がありますので、少し検討させていただきます。ただ、枠組みが結構固まりつつある現状で順番を入れ替えて全体が破綻しないかどうか考えながら、今の木村委員のご意見を検討したいと思います。

それでは、牧野委員、お願いいたします。

○牧野委員 私からは、やはり、先ほど高野委員からもありましたけれども、雪の問題についてです。これがもう切実で、コロナ禍とのダブルパンチですよ。私のように車椅子の者やハンデのある方、あるいは、高齢の方は、今、外出がすごく困難になっています。

57ページの基本目標5に「生活しやすく住みよいまち」という項目があって、その中の下のほうに「持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。」という文言が出ていますが、目指すものと現状のギャップがあまりにもあり過ぎます。

例えば、タクシーに乗ろうと思っても、タクシーの予約手配がつかないからできませんということがありますし、車椅子の人が乗るUDタクシーも今はコロナの影響で台数を減らしていて、予約を受け付けることができないときがあります。

さらに、道路です。今、排雪が追いついていないから移動が困難で、必要以上に時間も

かかりますし、移動しようと思っても、JRが雪の問題で止まっていて、交通手段もないのです。歩ける人は何とかしてでも歩いて移動することができるのですが、私たちはそれをすることもできません。物流にも影響が出ていますし、訪問介護を受けている方なども思うように支援が受けられないということもあります。

私は、今日の会議もそうですけれども、オンラインに切り替わったこと、あるいは、セミナーや審査会などがオンラインになり、すごく助かってはいるのですが、これにすっかりと慣れてしまって、外出するのが面倒くさくなっているという怠け病が出てきている面もあります。

また大学に入学した学生もオンライン授業に切り替わってからもう2年です。今後、学校に来てくださいと言ったら、行くのが面倒くさく思う学生もいるのではないかと、そんなことも心配しています。

それで、話は戻りますけれども、私がお願いしたいのは、参考資料2の1ページの一番下の安全・安心の中にある9の日常の安全が保たれたまちの3番目に、「交通ルールや自転車マナーが順守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。」というところ

です。事故の少ない安全な交通環境というのは、交通ルールや自転車マナーだけではないような気がします。今の雪の実情を見ますと、道路の脇に高く積もった雪があって、排雪が追いつかず、視界が遮られてすごく危ない状況になっていますし、子どもたちの通学路はもちろん、道路も狭くなっていて、行き交う車も危ない状況です。恐らく、大きな死亡事故は減っているかもしれませんが、逆に小さい事故がたくさん増えているのではないかと考えています。

それを踏まえ、3の「交通ルールや自転車マナーが守られている」の後に、雪の対策も含めた事故の少ない安全な交通環境が実現していますというように、雪の問題のことも一言増やしていただければと思っています。これは札幌のまちづくりの中の必要な要素ですし、雪は欠かすことのできない要素ですので、入れていただければと思います。

○平本会長 確かにおっしゃるとおりで、今年の雪などは、ハンデキャップをお持ちの方にとってはとても大きな障害になっていることはよく分かります。また、高野委員をはじめとして、雪についてのご指摘は山本一枝委員からも出されておりますので、今のご意見が反映されるよう、どこかに入れたいと思います。

人口が100万人を超え、積雪が5メートル以上降るところは札幌だけだと言われている希少な都市でありますし、それもある種の札幌の特徴の一つなのだと思いますので、これは検討いたします。

それでは、大変お待たせいたしました。尚和委員、ご発言をお願いいたします。

○尚和委員 私からは、56ページの生活・暮らしの部分について提案をさせていただきます。

考察の2行目の「札幌市民の健康寿命は全国平均よりも低くなっています。」という

ころについてです。

これからますます介護予防や健康づくりの取組が必要になってくるかと思うのですけれども、2行目の「これらのことから、高齢者などが必要な支援を受けられることや、市民や企業が健康への意識を高く持っていることが重要であるほか」とありますよね。必要な支援を受けられることはもちろん必要ですけれども、それだけではなく、元気な高齢者の方もたくさんいらっしゃいますので、今は、そういった方々の主体的な取組、自主的な取組を応援したり、連携したりするような取組や環境づくりも非常に必要になっていると思います。

行政では介護予防事業をやっていますけれども、それでは間に合わない状況で、高齢者の方が健康づくりやまちづくりにもっと参加しやすい状況をつくったり、既にやられている方々と行政と連携したりするもこれから必要になってくると思いますので、そうしたことを考察に盛り込まれるとよろしいのかなと思いました。

それから、56ページの下の私たちが取り組むことを目指す姿1の行政の部分ですけれども、この記載が少ないように感じております。市民や企業の健康への理解の促進だけではなくて、健康づくりや介護予防活動への参加の支援ということもあってよろしいのかなと思いました。

参考としては、61ページの「誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち」の基本目標7の下の私たちが取り組むことを目指す姿1の行政のところですが、ここには、まちづくりを支援するような、また、積極的に連携するような書き方がありますので、ここぐらいに、行政と市民・企業など、多様な主体が連携して取組を増やしていくような積極的な表現になればよろしいのかなと思いました。

○平本会長 特に56ページに関わる内容でした。

高齢者といっても、いろいろな高齢者がいて、元気な高齢者は元気な高齢者として、健康な暮らしや生涯活躍に積極的に関わるような視点が必要だということ、それから、私たちが取り組むことに関し、参加の支援という行政側の役割がもう少し必要だということでした。これも多分盛り込めると思いますので、今の尚和委員のご意見を反映させられるよう、どうにか直したいと思います。

事務局はすごく一生懸命考えてくださっているのですけれども、やっぱり、こうやって審議会をやると、それぞれの委員の立場から、それぞれの角度でご指摘をいただけて、とてもいいものになるのではないかという予感が私はしております。本当にありがたく思います。

それでは、柴田委員、ご発言ください。

○柴田委員 先ほどは質問だけで、文化のことを説明するのを忘れていました。

主に28ページで、ほかのところも共通しますが、実は、コロナになってから芸術文化で瀕死の状態になっているところが多いということで、「イチオシ!!」というテレビ番組で特集があり、取材を受けたことがあります。

正直に言うと、今書かれている文化のことは芸術文化の立場から見ると何の変化もないということが書かれているのです。どこの欄も現状で行われていることをただ書いているだけで、これから目標にするのは冬のオリンピックですと全部がなっているのですよ。でも、これだと希望がないように思います。

これは前にも説明したのですけれども、実は、オリンピックというのは、文化のプログラムもやらなければいけなくて、ロンドンオリンピックで17万7000プログラム、東京オリンピックでは20万の芸術文化プログラムが目標とされました。それはなぜかという、28ページにも書かれているとおりで、オリンピックには大目標があって、人種、性別、国籍などの垣根を超えた、つまり、多様性のある社会や世界、平和の実現を目指しているわけです。でも、そうした社会というのは文化芸術がなければ目指せないわけです。

こういうふうに考えますと目的は同じですから、せめてこういうものをスポーツだけで目指すのではなく、せつかく文化分野として一項目で書かれているので、文化芸術も交えて、ともに文化として目指すのだと一言入れていただくと、芸術文化関係者も少し希望が持てるかなと思いました。

○平本会長 柴田委員がいつもご指摘くださることで、オリンピックは単なるスポーツイベントではないのだよ、まさに文化と芸術のプログラムも含め、オリンピックの本来の目的が果たされるのだということだと思っております。今のご指摘も反映できそうな気がしますので、今の柴田委員のご意見も積極的に取り入れた改訂を試みたいと思います。

ここで私から一つだけ申し上げます。

前半のほうで山本一枝委員から都市像についてのご意見がありました。ほかの委員の方からも少し出るのかなと思っていたら、都市像についてはあまりご意見がなかったのですけれども、もしこれについて何かお考えのある委員の方がいらっしゃいましたらご発言をいただきたいと思います。

山本一枝委員からは、参考資料1の一番左下のところですが、1の改訂案のほうがいいのではないかというご意見でした。ここについて特段のご意見がないとすると、山本一枝委員以外は原案でいいとお考えなのかもしれないので、何かご意見はありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 私個人としては、山本一枝委員とちょっと違って申し訳ないのですが、原案がいいかなと実は思っておりました。その理由は少しでも短いほうが、インパクトが出るだろうからです。それから、少し言葉をそぎ落としたほうが、余韻というか、余白の美というか、変な表現ですけれども、それが感じられると思ったからです。

今、参考資料1に赤色の字で書かれている都市像は、読めば読むほど、結構じんわりとよさが伝わってくる気がすると思いますか、するめを噛んでいるとどんどんおいしくなっていくようなよさを持っていると思うのですね。

1の修正案も決して悪くないのですけれども、「向けて挑戦する」が入ることで余白の

美みたいなのがやや失われている気がするのです。非常に抽象的な言い方で申し訳ないのですが、そんなふうには私は思っていて、結局、原案でいいのかなと思っていたところでした。

もしほかの委員の皆様方から特に強いご意見がなければ、そして、山本一枝委員にご了解をいただければ原案でいきたいなと個人的には思っておりましたが、いかがでしょうか。

ちなみに、梶井副会長はどのようにお考えでいらっしゃいますか。

○梶井副会長 私も、会長が余韻とおっしゃいましたけれども、市民一人一人がご自分で考えて、内発的にチャレンジする方向性に向かっていただけ、そうした余地を残すほうがいいと思いますので、原案を押ししたいなという気持ちでおります。

○平本会長 山本一枝委員、いかがでしょうか。

○山本（一）委員 私としては挑戦が特に重要ななと思いましたが、皆様から特にご意見がなければ原案でよろしいかと思えます。

○平本会長 挑戦に関わるような文言はいろいろなところがちりばめられていると思いますので、都市像としては少しシンプルに、原案ということでお認めいただければと思います。

また、前半のビジョン編の答申案については大体ご意見をいただけたと思っています。時間は若干押しているのですが、後段の戦略編に関わるご説明をいただき、それについてご議論をいただきたいと思っています。

それでは、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（本山企画課長） それでは、資料2をご覧くださいと思います。

こちらは、戦略編の第2章の分野別施策の構成イメージとなります。

この章では、ビジョン編で掲げた分野ごとの基本目標と目指す姿のそれぞれに対応する行政が取り組む施策の方向性を記載していく予定です。ただ、これまでの審議会でも分野横断的な視点が必要とご指摘をたびたびいただいていたところがございます。

そこで、資料3をご覧ください。

こちらは、戦略編の第1章で掲げる分野横断的に取り組む施策のイメージで、ここでは三つの重要概念を軸として、分野横断的に取り組んでいくこととそれに関連する基本目標を記載しています。

まず、ユニバーサル観点では、ハード、ソフトの両面でのバリアフリー推進、また、ウェルネスの観点では、健康行動の促進とウォークアブルシティの推進、人生100年時代の学びと社会参加の実現、そして、スマートの観点では、スマートシティの推進、人材育成・産業競争力の強化、ゼロカーボンの推進、雪の利活用、さらに、人口減少の緩和という観点から全体に関連するものとしたしまして、市民の希望出生率の実現、若年層の道外転出超過の抑制を検討しております。

これらの分野横断的な課題、観点につきましては、基本目標の達成に向けた施策を定め

る戦略編の中で具体的に整理をしていきたいと考えております。

最後になりますが、本日、ビジョン編の議論は終了しますが、行政が行う施策の方向につきましても、この戦略編の中でこれから内容を精査していくこととなります。今後も委員の皆様からご意見を賜りたいと考えておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

○平本会長 ただいまご説明いただきました内容は、戦略編の言わば土台、基礎に当たる部分であります。戦略編の内容につきましては今回が最初でして、これから議論が本格化し、令和4年度に市長に答申をするという手順になっております。これからこの審議会で様々なご意見を頂戴したいと思うのですけれども、今日は、その第1回目として、ただいま資料2と資料3に基づいてご説明をいただいた内容についてご意見あるいはご質問も含めまして、ご発言があればご自由にいただきたいと思っております。

いかがでございましょうか。

○岡本委員 資料2についてです。

こちらは、行政が取り組むことに関して、施策が書かれていくという理解で正しいと思うのですけれども、既に取り組んでいることと新規でやっていくこと、あるいは、既に取り組んでいることの中身を改善し、もっとよくすることなど、上がってくる項目の質がそれぞれ変わってくると思うのですけれども、それは読み取れるような形になるのでしょうか。もし読み取れる形を想定されていたら、第1次戦略ビジョンとの関係性もあるので、それも含め、見えるようにしたほうがいいかなという意見です。

もう一つは、資料3についてです。

これは見ていて、すごく難しいなと思っていましたし、理解するのは結構大変ですよ。三つの重要概念が背景にありつつ、それぞれで星のついている推進内容を基本目標が複数にまたがって実施しますというもので、表現がすごく難しいです。

例えば、120度ずつに分けた円のような形にして、円、弧を描く帯で拾っていくような形のほうがもしかしたらいいのかな、あるいは、星取り表みたいな形で目標と星印の関係を見せてあげるほうが分かりやすいのかなと思っていました。もう少し分かりやすい表現をしていただければと思います。

○平本会長 前半の資料2に関わる話について何かご返答をいただけますか。

○事務局（本山企画課長） その辺のめり張りをつけて表現していきたいと思っております。

○平本会長 資料3については、今、岡本委員からご指摘があったように、120度ずつの円にして、カバーする領域を示すというのは一つの表現の方法だと思います。

実は、私も事前説明で資料3を見たとき、これは一体どういうことなのだったのです。一個一個が言わばプロジェクトというような位置づけで、縦割りの行政に横串を刺してやりたいのだという行政としての思いがあるようなのです。でも、それが市民になかなか伝わらないとすると表現方法に少し難があるということですので、今の岡本委員のご指摘を基に再度検討したいと思っております。

では、川島委員、お願いいたします。

○川島委員 まず、資料3について1点です。

私が見落としていたら大変申し訳ないのですが、分野横断的に取り組む施策として、ウェルネスの健康行動の促進とウォークブルシティの推進、スマートのスマートシティの推進というところについてですが、今までやってきた資料のビジョン編ではこの二つが明確に定義づけられていなかったのではないかなと思っています。ウォークブルについては注釈がありましたけれども、スマートシティというのは、皆さんはご存じなのでしょうが、市民の方々にはまだ認知されていないのではないかなと思います。

また、加えて、健康行動というのも初めて出てきた言葉ですよね。これも意味合いは分かるのですが、こういう言葉は本当に使われるのかなというのが気になりましたし、ビジョン編と戦略編の関連性を考えると、今度はこの辺をビジョン編で明確に打ち出していく必要があるのではないかなと思っております。

○平本会長 ウォークブルシティとスマートシティ、それから、健康行動の概念がきちんと定義されていないとまずいでしょうというご指摘だと思います。

これはビジョン編で定義するべきなのでしょうか。それとも、戦略編で位置づけたほうがいいのでしょうか。

○事務局（本山企画課長） スマートシティについては、本書の40ページの下欄の注釈の上から3段目の87番に書かせていただいておりますし、ウォークブルも41ページの注釈の一番上の92番で頭出しをさせていただいている状況になります。

○平本会長 一応、脚注のところ用語の定義をしているということでしたが、何であっても、スマートシティやウォークブルシティという片仮名言語が市民になじんでいないだろうという川島委員のご指摘はそのとおりだと思いますので、こういう片仮名言語であるがゆえのなじみにくさも含め、市民の皆様にはちゃんと伝わるように表現することを意識したいと思います。

牧野委員が手を挙げていらっしゃると思いますので、ご発言をお願いいたします。

○牧野委員 内容ではなくて恐縮ですが、例えば、星のマークのついた字がちょっと斜めになっていますよね。私としては、ちょっと読みづらいな、見づらいなという印象があります。前にも出ていたかと思うのですが、UDフォントを全ての文字に使っていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○平本会長 この資料3は、多分、この会議のための資料だと思うのですが、これが土台になって戦略編ができていくことを考えると、今のうちからユニバーサルデザインやユニバーサルカラー、ユニバーサルフォントを意識することの重要性はそのとおりだと思いますので、今後はそういうことも意識した資料づくりを事務局にお願いします。

事務局はいっぱい注文がついて大変かと思いますが、重要なご指摘だったと思います。

高橋委員、お願いいたします。

○高橋委員 基本的なことでも申し訳ないのですが、この戦略というのは分野別の施策と分野横断的な施策で構成されるということなのではないでしょうか。

○平本会長 私はそう理解しておりますし、今のところはそういう構成で考えております。

○高橋委員 そうでしたら、2番目の分野横断的のほうです。

ユニバーサル、ウェルネス、スマートというのは、分野ではなく、概念だと思いました。ですから、こちらは、分野横断的というよりは、むしろ、特に推進する取組としたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。

そして、先ほどからもご指摘があるように、横断するといった書き方ではなく、特に取組を推進する中で、こういった概念に近づけていく、達成していくというような書き方のほうが見やすいのではないかと思いました。

○平本会長 おっしゃるとおりでして、ビジョン編の答申案の47ページのところには、まちづくりの重要概念という形でこの三つが挙がっておりますので、分野横断的という表現がミスリーディングだというのはご指摘のとおりだと思います。

また、今、高橋委員からご指摘があったように、結局、これは一個一個の概念で収まらないからどうしても複数の概念にまたがる施策を打っていかねばいけないということが行政側の思いでして、そういったことがきちんと伝わるような表現をできるだけ探りたいと思います。

それでは、中田委員、お願いいたします。

○中田委員 内容というわけではないのですが、1点質問です。

この基本目標の目指すべき姿の施策に関して、例えば、具体的に数値的な目標を立てることが可能なものに関しては数値的なものを交えながら戦略的なものを施策として定義してはどうかと思います。

○平本会長 それはもちろんそうだと思いますが、KPIなり指標なりを今後の審議会で大筋について具体的に議論して、その後の個別のアクションプランに落とし込むところでは、また別の審議会が開かれるなり、行政で考えるなりというステップになろうかと思えます。

それでは、山中委員、お願いいたします。

○山中委員 私の理解不足なのか、かなりよく分かっていません。この三つごとにそれぞれの横断的施策が入るとというのがちょっと分からないのです。概念ということで納得はしたのですが、例えば、人生100年の学びというのはほぼ全てに入るような話だし、ゼロカーボンも全ての施策の中に入って行くもので、それは快適や先端というスマートだけに収まるようなものではないような気がします。そういう意味では、この基本目標に、先ほど星取り表という言い方をしてくださった方もおられますけれども、この3点の視点がどのように入っているかを意識する程度にして、この三つ自体はいいのではないかと気がしています。

そして、SDGsに関して、先ほどもありましたように、視点を取り込むということがあるならば、そういう視点もここで意識していただきたいと思えます。

○平本会長 そうなのですね。多分、この資料3には、分野横断的に取り組む施策のイ

メージという表題がついていて、本来は重要概念であるはずの三つが分野に見えてしまっていることが、今、山中委員にご指摘いただいた重要なところですよ。これは行政側にもちょっとした思い込みの違いみたいなことがあるような気がするので、もう一回検討いたしまして、冒頭に岡本委員からご指摘いただいたような星取り表、あるいは、円にするということも含め、表現の仕方を検討したいと思います。

それでは、吉岡委員、お願いいたします。

○吉岡委員 今日の話合いをどの程度まで進めるのかは理解していませんけれども、この戦略編というのは、まちづくりの基本目標の達成に向けて札幌市、行政が取り組む手法という位置づけだということですよ。そして、札幌市が取り組む手法として、それぞれの分野があって、そこだけでということになると解決できない様々なものがあるので、横断的というようなイメージで私は理解していたのですが、それでいいのでしょうか。

○平本会長 吉岡委員のおっしゃるとおりで、私が説明を省いたのが悪かったのですが、戦略編というのは行政が具体的に行う施策を規定するものなのです。ですから、これは行政がやるべきこととなります。しかし、私が先ほど申しましたように、行政というのは縦割りのものだから、例えば、隙間にうまく手が届かなかったり、あるいは、重複してしまったりということが起こり得るのです。そうならないよう、どうにか横串をうまく刺しながら効率的、効果的な施策が打てないかというのがこの分野横断的という言葉にじんでの事務局的思いなのです。

○吉岡委員 そうですよ。私もそう理解しておりましたが、分野横断的な視点で取り組んだほうがよりよいだろうというものを厳選して考えていったらいいなと私は思っております。

ここに出ている項目もちろん、これから考えていく必要があるし、必要だと思うのですが、とにかく総花的にはやらないでいただきたいという思いがすごく強いです。厳選したものを横串で刺して、これは絶対に取り組んでいくのだ、この10年でということをお我々で意見交換しながら、分野横断的に、行政の方たちが自分の領域、分野を超えて、手をつないでやっていくのだということが、誰が見ても分かるような形でまとめていったらいいなと思っております。

○平本会長 今、吉岡委員がおっしゃったとおりでして、この資料3に挙がっている星がついているものは、差し当たり、今、事務局がこの時点で考えている、これからの10年で実現するといったのではないかとする項目です。今日、個々の中身について掘り下げるとは時間的にも無理ですし、これは今後の課題ですが、まさに今、吉岡委員がおっしゃったとおりで、今後、もっとやることほかにあるのではないかと、優先順位はこちらのほうが上ではないかという議論をこの審議会を進めながら、10年後の札幌市をよりよい都市にするために具体的な施策を考えていく、その最上位に当たる戦略をここで策定することが我々の審議会のこれからのミッションになると私は理解しております。

すごく延びるかと思ったら、大体スケジュールどおりに収まりそうな感じなのですが、委員の皆様方、言い残したことはございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 議題①と議題②のそれぞれについて、大変活発に、かつ、多面的に、それぞれの委員のお立場から非常に有意義なご意見やコメント等をいただきました。まずはビジョン編の答申に今日ご議論いただいたものを反映させ、2月17日に市長に答申したいと思っております。

今回は戦略編の策定ということで、より具体性を増した議論をいただくことになるかと思いますが、次の審議会以降も引き続きご検討をくださればありがたく思います。

それでは、予定していた時間を2分ぐらい押ししましたが、これで本日の審議を終了させていただきたいと思っております。

長時間の活発な審議をありがとうございました。

事務局から連絡事項をお伝えいたします。

○事務局(浅村政策企画部長) 本日は、大変濃い内容の議論をいただき、また、ビジョン編の答申案を成案にしていくという段階において様々な御指摘をいただき、大変ありがとうございます。

事務局でもかなり検討を重ねてまいりましたけれども、やはり、それぞれの委員のご指摘のとおりで、気づけなかったところもあったので、今回ご指摘をいただいたものについては、適宜、修正と検討をさせていただきます。審議会において、再度、答申案について議論することはございませんけれども、会長にご相談して答申案をつくり上げ、2月中に審議会から市長に答申をしていただこうと考えております。

中でも、写真についてのご指摘を数名の委員からいただいております。この冊子については、最終的には、来年度の議会で議決を受けた上で成案となり、市民に公表していくこととなりますが、その段階でデザインも含めて発注し、市民にとって分かりやすいものにしていきたいと思っております。

本日は、その成案のイメージとして写真を添付してお示したのですが、ここについては分かりづらい点や誤解を生むような点があったということで、事前にその点のご指摘をいただけたことは非常にありがたかったところです。

今後は戦略編の議論に移っていきますが、これについてもいろいろとご意見をいただきました。我々の今までやっている行政の取組がビジョン編で議論されている行政課題の複雑化や社会の変化にきちんと対応しているのかどうか、もしくは、アプローチをどう変えたらいいのか、また、既存の行政組織では、その守備範囲もしくは制度の中でそうした行政課題にきちんと対応できていないのではないかとということもあります。

今回は分野横断的と表現させていただきましたが、そこには、平本会長がおっしゃった隙間にあるものをいかに拾い、押し上げていくかという視点も必要になってくると思いま

すので、そうしたことも含めて、行政の施策にどう取り入れていくのかについて、ビジョン編に引き続き、議論をいただければと思っております。

次回以降ですが、分野別の専門部会で戦略編の内容についてご議論をいただきたいと考えておまして、4月頃を予定しております。日程調整については、後日、事務局からご連絡をさせていただきます。今回からさらに掘り下げた議論をいただきたいと考えておりますので、改めてよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

3. 閉 会

○平本会長 それでは、これにて本日の審議会は終了でございます。

引き続き戦略編のご議論をいただきたいと思っております。4月頃ということで、次回の審議会以降もどうかよろしくお願いいたします。

それでは、本日は、どうもお疲れさまでございました。

以 上